

第 434 回生命科学セミナー・2025 年度第 2 回行動科学セミナー 合同開催のお知らせ

下記の通り生命科学と行動科学分野の合同セミナーを開催します。教員・院生・学部生を問わず、ふるってご参集下さい。

日時： 令和 7 年 9 月 16 日（火） 10:00-11:30

場所： 広島大学 総合科学部 J306 教室

演者： 松永 昌宏 氏（愛知東邦大学 教授）

演題： 科学の力で「ウェルビーイング」を「見える化」する

要旨：

新型コロナウイルスの流行によって、経済的な成功よりも生きがいや健康に楽しく生きることを優先させる「ウェルビーイング」への志向が個人に高まっていると言われている。ウェルビーイングとは、「個人や社会のよい状態」という意味であるが、その志向の高まりが日常生活や経済活動に変化をもたらし、ひいては社会構造の変革へとつながる可能性が考えられる。しかしながら、私たちはどうしたら「よい状態」を送ることができるのだろうか。「よい状態」とは非常に曖昧な定義であるため、これは誰にとっても重要な問いである。

ここからただ密接に関連しており、誰しも、定期テストが近づくと食欲が落ちたり、逆にうれしいことがあると食欲がわいたりといったことが起こるものである。こうしたつながりを踏まえて、体を調べることで「感情を見える化」する研究が進められている。本セミナーでは、演者のこれまでの MRI（磁気共鳴画像）などを用いた脳科学・生理学的研究の成果から、目に見えないウェルビーイングを見える化し、ウェルビーイングを高める方法について考察する。

Matsunaga M et al. Subjective well-being can be predicted by caudate volume and promotion focus. Brain Struct Funct. 2024 Dec;229(9):2315–2326. doi: 10.1007/s00429-024-02830-3.

問い合わせ先： 浮穴 和義（ukena@hiroshima-u.ac.jp）（内線 6571）

小川 景子（ogawakeicom@hiroshima-u.ac.jp）（内線 6580）

（注）本セミナーは、統合生命科学研究科セミナーとして、プログラム共同セミナーの対象です。